

SENDAI
INTERNATIONAL
MUSIC
COMPETITION

for Violin & Piano



仙台国際音楽コンクールニュース

コンチェルト

Concerto



第7回仙台国際音楽コンクール

ピアノ部門 : 2019年5月25日(土)~6月9日(日)

ヴァイオリン部門 : 2019年6月15日(土)~6月30日(日)

Vol.7-3

(2019.3.13発行 第7回コンクール関連 第3号)

インタビュー 成田達輝さん

(第5回仙台国際音楽コンクール ヴァイオリン部門第2位)

現在、世界各国を舞台に活躍されている成田達輝さん。音楽に対する思いや、仙台国際音楽コンクールについて、お話を伺いました。

ヴァイオリンを始めたきっかけを教えてください。

ヴァイオリンを始めたのは3歳の時ですが、私の記憶にはありません。自分が演奏する「きらきら星変奏曲」のビデオを見ても思い出せないんですよ。ただ人前で演奏することがすごく好きで、小学生の時、帰りの会で自ら手を挙げて、黒板に「スッペの詩人と農夫、セカンドヴァイオリンのパート」と書いて演奏したりしました。ンチャチャチャしかないんですけど(笑)。ヴァイオリンを学校に持っていく日は、ヴァイオリンをソリに乗せて遊んだりして、その日の授業は全く聞いてなかったですね。

演奏家を志す転機等ありましたか。

札幌から東京へ転居して先生を探さなければならなくなりました。その時に藤原浜雄先生に出会い、音楽に対する真摯な姿勢や情熱に惹かれて先生のようになりたいと思ったのが一つの大きな転機です。もう一つは、全日本学生音楽コンクールで優勝をいただいたときです。それまで息子はヴァイオリンを趣味でやっていたらと思うと両親が、ハッとなったみたいです。そして、霧島国際音楽祭で現在のマネジメント会社と出会い、現在に至ります。ただ、今もヴァイオリンを弾くことが仕事というのは違和感があります。趣味の延長ではないけれども、仕事と言い切れるか分かりません。自分で楽しむことによって相手もそのメッセージを受けてより高みに上っていく共同作業というか。自分の理想の高みに上ろうと思えばどこまでもいける世界であるので、仕事でくくることはできないと思います。

演奏を重ねていく中で感じていることや、思っていることなどはありますか。

コンサートに来てくださる方は、それぞれのバックグラウンドや異なる感情があります。喧嘩した後でムカムカするとか、おなか一杯で眠いとか。そのすべてがステージ一つに思いを馳せたり、感情に浸る行為をしてくれることは本当に素晴らしいと思います。クラシックは、楽しいだけではなく喜怒哀楽すべてを封じこめることができるのです。だから演奏家の出す音が無条件であるほど、観客は自由に受け取りさまざまなエネルギーが生まれます。私がフランスのパーティーに参加したとき、現地の言葉をよく話すことができず、一人取り残されたことがありました。だれかに振り向いてほしくてヴァイオリンを弾いたんです。そうしたら一人の女性が涙ながらに「生の演奏を聴いたの久しぶり」と言ってくれたのです。一定の方のみに伝わる言葉と違って、音楽はもっと原始的なもので、自分に直接入ってきます。言葉の先に音楽の力を感じました。例えば、「音楽は平和をもたらすことはできるのか」と言われると、それはできない。だけれども、音楽を奏でる環境そのものが平和なものです。そこで、それぞれバックグラウンドの異なる人が同じ時間を共有する、そんな機会を作りたいです。



成田達輝さん

目指しているヴァイオリニストはいますか。

ギリシャ出身のヴァイオリニスト、レオニダス・カヴァコスさんです。僕は以前、音楽の演奏方法について、こんなことやりたい、あんなことやりたいといういろんな方向にベクトルが向いていましたが、ようやく音楽の形というか、球体のような範囲を見つけました。今はそれをどう大きくしようか考えているところですが、彼はもはやそれが壮大なスケールになっている方で、哲学的にも共感できます。

仙台の印象はいかがですか。

仙台が大好きで、仙台には何かがあるんですよ。それは、たまたま仙台での演奏会でよくヴァイオリンの弦が切れるとか、そういうことじゃないですよ(笑)。レオニダス・カヴァコスさんとお話しする機会があって、彼はこう言ったのです。「日本の聴衆は世界最高である。それは教養であり、感受性でもある」。私は日本人には、黙っていても相手を理解できる能力があると考えています。特に東北の方にはそれが高く、仙台国際音楽コンクールの会場にも影響していると思います。

もうすぐ第7回仙台国際音楽コンクールが始まります。コンクールならではの楽しみ方などありますか。

コンクールには若い人が出ますから、心の中が発展途上で、アイディアを含め若さゆえの過ちもあります。ある意味スリリングさを楽しめると思います。演奏者の立場からも、セミファイナルからオーケストラと共演をできるのは大変魅力でありました(※)。また、来場者の皆さまからメッセージカードをいただきました。それが大変嬉しくて、今でもそのカードを持っていて大切にしています。

(※)第7回ヴァイオリン部門は予選からオーケストラと共演します。



仙台国際音楽コンクールについて

「仙台国際音楽コンクール」は、仙台市が開府四百年を記念して2001年に創設、その後3年ごとに開催しているコンクールで、今回が第7回の開催となります。

ピアノ部門とヴァイオリン部門からなり、コンチェルト（協奏曲）を課題曲の中心に据えるという、世界にも類を見ない特色を持っています。このコンクールは才能ある若い音楽家を輩出することにより、世界の音楽文化の振興および国際的文化交流の推進に寄与することを目的とし、2005年より「国際音楽コンクール世界連盟」に加盟し、その規則に則った公正で信頼性の高い運営を行っています。

審査の流れは、動画データによる予備審査を経て、予選、セミファイナル、ファイナルという構成になっています。予選は、ピアノ部門では独奏、ヴァイオリン部門では独奏と指揮者なしのオーケストラとの共演、セミファイナル以降は両部門ともコンクールのホストオーケストラである仙台フィルハーモニー管弦楽団との共演による演奏が審査されます。また、今回より、ヴァイオリン部門のセミファイナルでは、日本のコンクールで初めて出場者にコンサートマスターとしての演奏が課せられます。

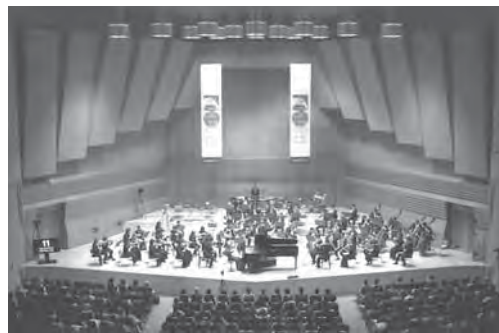
予選以降は全て公開で行われ、2016年開催の第6回コンクールには約9000人の聴衆が来場し、若き音楽家たちの演奏をおおいに楽しみ、温かい拍手を送りました。



また、多くのボランティアによる運営サポートも特徴の一つで、市民による温かいおもてなしは、このコンクールの大きな柱となっています。

コンクール期間中は、関連事業として、次のラウンドに進めなかった出場者が演奏する「チャレンジャーズ・ライブ」や小中学校での「学校訪問ミニ・コンサート」、若い音楽家を対象とした「審査委員によるマスタークラス」なども開催されます。

青葉の季節に、杜の都仙台で多くの市民がクラシック音楽を楽しみ、世界レベルの音楽家と交流を図る機会となっており、「楽都仙台」を代表する催しに成長を遂げました。



仙台国際音楽コンクールを支える大きな力

仙台フィルハーモニー管弦楽団をもっと知ろう！【8】



仙台フィル マスコットキャラクター
(C)MIKIO IGARASHI/S.R.O

今回は、仙台フィルハーモニー管弦楽団 首席ホルン奏者、須田一之さんにお話を伺いました。



首席ホルン奏者 須田一之さん

前回のコンクールを経験された印象はいかがでしたか。

コンクールで出場者の方たちと一緒に演奏するにあたって、予選の段階から既にかなりレベルの高い演奏をされることや、コンクールが進むにつれて私たちの予想を上回るような成長の早さにいつも驚かされます。また、仙台国際音楽コンクールが始まった頃に比べて、課題曲の

範囲も広まり、レベルも年々上がってきています。一緒に演奏するこちらにも求められることが増えてきたので、なかなか手強くなってきたという印象ですね。

ホルンを始めたきっかけや、オーケストラ奏者を目指すようになったきっかけを教えてください。

野球の応援に憧れて、中学一年生の時に吹奏楽部に入学し、そこでホルンと出会いました。最初に希望したのは、金管楽器の花形ともいえるトランペットだったのですが、人数の関係でホルンを吹き始めたというのがきっかけですね。高校の時に巡り合った先生の影響もあり、音楽の道を本格的に目指すようになって、その最終到達点にオーケストラ奏者という目標が見えてきた、という感じです。

ホルンの魅力、オーケストラの中でのホルンの役割は何でしょうか。

ホルンは昔から、大衆に一番近い楽器として親しまれていました。様々な編成やジャンルの中で使われて取り入れられてきたので、

今でも色々な楽器と共に演奏できる機会があるということがひとつですね。どちらかといえば花形ではないのですが、かといって必要でないわけではない。オーケストラの中でも重要なパッセージを担っていたり、とても多彩であるということが魅力だと思います。ギネスブックでは、世界で一番難しい楽器として選ばれているくらいですから、確かにとても難しい楽器です。ベルが後ろを向いている分、他の楽器と出しを合わせるのが大変だったり、ホルンならではの苦労もありますね。しかし、サウンドを形成するという上でホルンは欠かせない存在で、ホルン独特の重厚な響きがオーケストラに与える影響は計り知れないほどあるのではないかと考えています。

須田さんおすすめのホルンの聴かせどころのある曲を教えてください。

長いソロを受け持つということが多いわけではないですが、ベートーヴェンやブラームスの交響曲は、「ここはホルンだな」とわかるメロディーが多いのではないかと思います。先ほど言った通り、ホルンは多彩さが魅力なので、実はあまり目立たない曲はそんなにないんです。作曲家や時代という枠を通り越してホルンの音色を聴いていただければと思います。

最後に、第7回仙台国際音楽コンクール出場者への期待や応援メッセージをお聞かせください。

日本各地からはもちろん、世界中から自分を磨いて集まってくる出場者の皆さんが少しでも高みに登れるように願っていますし、また伴奏側としても最善を尽くしてサポートしてあげたいと思っています。あとはとにかく万全の体調でベストな結果を出してもらえることが一番の願いですね。

第7回仙台国際音楽コンクール出場者情報

第7回仙台国際音楽コンクールでは、前回は上回る19の国と地域から84名のコンテスト（出場者）が選ばれました。国・地域別に分けてみると、日本がピアノ、ヴァイオリン両部門を合わせて20名と最も多く、韓国17名、アメリカ14名、中国9名、ロシアが8名と続きます。ヴァイオリン部門では、過去最年少の12歳の出場が決まりました。

これまで仙台国際音楽コンクールに出場経験のある演奏家は、ピアノ部門では、イ・テヒョンさん、ラファエル・リープシュタインさん、ユン・ジュンさん。ヴァイオリン部門では、友滝真由さん、ケリー・タリムさんなど。

今回のコンクールには、日本音楽コンクールで2018年第1位を獲得した荒井里桜さん、入選の関朋岳さん、2017年第3位の岸本萌乃加さん、2016年第1位の樋口一朗さんが出場します。関朋岳さんは2018年、荒井里桜さんは2017年の東京音楽コンクールでそれぞれ第1位になっています。また、前回のコンクール時に開催した「審査委員によるマスタークラス」を受講した竹本百合子さんや荒井優利奈さんも出場します。

今回紹介していない方の中にも、他のコンクールで入賞やファイナリストに選ばれ、世界の舞台で活躍が期待されている方々も多数います。

コンクールではたくさんの演奏家の音楽を聴くことができるので、自分が好きな演奏家に会えるという点も楽しみのひとつです。若い音楽家たちの熱い演奏を応援してみたいはいかがでしょうか。



ピアノ部門

No.	氏名	国・地域
1	アレキサンダー・リー・アガーテ	アメリカ
2	ツァイ・ヤンルイ	中国
3	アルベルト・カーノスミット	スペイン
4	チェ・ホンロク	韓国
5	ウィリアム・デイヴィッドソン	アメリカ
6	アンドレイ・デニセンコ	ロシア
7	ライアン・ジョシュア・ドラッカー	イギリス
8	ジェイムズ・バロン・フェンウィック	アメリカ
9	カテリーナ・ガラニチ	ウクライナ
10	ハン・キュホ	韓国
11	樋口 一朗	日本
12	平間 今日志郎	日本
13	廣田 響子	日本
14	ファン・ゴンヨン	韓国
15	チェン・ヨンファン	韓国
16	チョン・ヨンファン	韓国
17	キム・ドンギョ・レオ	韓国
18	キム・ジュンヒョン	韓国
19	コニー・キム＝シェン	アメリカ
20	小林 海都	日本
21	スタニスラフ・ウラジミロヴィチ・コルチャギン	ロシア
22	イ・テヒョン	韓国
23	ラファエル・リープシュタイン	ドイツ/アルゼンチン
24	ヴィクトル・マスロフ	ロシア
25	ミカ・マクローリン ※出場辞退	アメリカ
26	中迫 研	日本
27	奥谷 翔	日本
28	ジョスカン・オタル	フランス
29	パク・キョンソン	韓国
30	パク・スホン	韓国
31	パク・イェラム	韓国
32	ダリア・バルホーメンコ	ロシア
33	ガブリエル・マグナス・リリアン・ライヒェルト	スイス
34	ゾーラ・サルキシャン	アルメニア
35	佐藤 元洋	日本
36	沢田 蒼梧	日本
37	フィリップ・ショイヒャー	オーストリア
38	イリヤ・シュムクレル	ロシア
39	ステファニー・タン	アメリカ
40	ワン・シンラン	中国
41	ワン・シュ	中国
42	ユン・ジュン	韓国
43	ユン・ジヒョン	韓国



ヴァイオリン部門

No.	氏名	国・地域
1	荒井 里桜	日本
2	荒井 優利奈	日本
3	チャン・アンジェラ・シンイン	香港
4	チェ・ジウオン	韓国
5	イザベル・アイ・デューレンバーガー	アメリカ
6	古澤 香理	日本
7	石原 悠企	日本
8	ミミ・ジュン	アメリカ
9	城戸 かれん	日本
10	岸本 萌乃加	日本
11	北田 千尋	日本
12	コー・ドンフィ	韓国
13	オーリン・ラウルセン	アメリカ
14	リー・チー	台湾
15	シャノン・リー	アメリカ/カナダ
16	リョウ・シンウェン	中国
17	イム・ドンミン	韓国
18	チャーリー・ステファン・ジェームズ・ラヴェル＝ジョーンズ	イギリス
19	ルー・ジャーチャー	中国
20	ミャオ・ハオ	中国
21	三輪 莉子	日本
22	イリアス・ダビッド・モンカド	ドイツ
23	村尾 隆人	日本
24	アンドレア・オビソ	イタリア
25	アルフレッド・レイエス・ログノワ	メキシコ
26	アレキシス・ルサン	フランス/ロシア
27	フョードル・ルディン ※出場辞退	フランス/ロシア
28	キアラ・スアン・サイトウ＝ベックマン	アメリカ
29	フェリシタス・シフナー	ドイツ
30	関 朋岳	日本
31	オレスト・スモグシ	ウクライナ
32	グリゴリー・タダエフ	ロシア
33	竹本 百合子	日本
34	ケリー・タリム	アメリカ
35	ジェームズ・ケンドール・トンプソン	アメリカ
36	友滝 真由	日本
37	ユリア・トゥルノフスキー	オーストリア
38	ウィ・ジマン	韓国
39	チャン・フウア	中国
40	チャン・ウェイル	中国
41	チャン・インチェン	中国/アメリカ

(2019年3月4日現在)



第7回仙台国際音楽コンクール チケット情報

日程：5/25（土）～ 6/30（日）

会場：日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）

【ピアノ部門】 2019年5月25日（土）～ 6月9日（日）

【ヴァイオリン部門】 2019年6月15日（土）～ 6月30日（日）

※未就学児のご入場はお断りいたします。

※車椅子席をご希望の方は仙台国際音楽コンクール事務局までお問い合わせください。

	ピアノ部門	ヴァイオリン部門	座席	料金（税込）
予選	5月25日(土) 10:00 5月26日(日) 10:00 5月27日(月) 10:00	6月15日(土) 12:30 6月16日(日) 12:30 6月17日(月) 10:30	全席自由 (日付指定)	1,000円
セミファイナル	5月31日(金) 18:00 6月 1日(土) 14:00 6月 2日(日) 14:00	6月21日(金) 18:00 6月22日(土) 14:00 6月23日(日) 14:00	全席指定	S席:3,000円 A席:2,000円
ファイナル	6月 6日(木) 18:30 6月 7日(金) 18:30 6月 8日(土) 15:00	6月27日(木) 18:30 6月28日(金) 18:30 6月29日(土) 15:00	全席指定	S席:3,000円 A席:2,000円
入賞者記念 ガラコンサート	6月 9日(日) 14:00	6月30日(日) 14:00	全席指定	S席:4,000円 A席:3,000円
審査委員による マスタークラス	6月 3日(月) 13:00 6月 4日(火) 13:00	6月24日(月) 11:00 6月25日(火) 11:00	全席自由 (日付指定)	一般:1,000円 学生: 500円

【チケット取扱】

- 仙台国際音楽コンクール公式サイト <https://simc.jp> ※ローソン、ミニストップ店頭Loppiでのお引き取り
- 日立システムズホール仙台 1階事務室〔受付時間〕9:30～19:30 ※休館日は取扱いいたしません
- 仙台銀行ホール イズミティ21 1階事務室〔受付時間〕9:30～19:30 ※休館日は取扱いいたしません
- 仙台三越
- ローソンチケット（Lコード）22364
〔WEB〕<https://l-tike.com/classic/simc7>
〔窓口〕ローソン、ミニストップ各店
〔電話予約〕0570-000-407（オペレーター対応10:00～20:00）、0570-084-002（自動音声24時間）
- チケットぴあ（Pコード）137-889
〔WEB〕<https://w.pia.jp/t/simc2019/>
〔窓口〕全国のチケットぴあ（藤崎、八文字屋書店泉店 他）、セブン-イレブン各店
〔電話予約〕0570-02-9999（自動音声24時間）

主催：仙台国際音楽コンクール組織委員会、仙台市、公益財団法人仙台市市民文化事業団

お問い合わせ：仙台国際音楽コンクール事務局（公益財団法人仙台市市民文化事業団内）Tel.022-727-1872

♪編集後記♪

コンクールのチケットが発売になりました。今回は全日通しで聴きたいと思っています。当分の間厳しい小遣い管理が続きます。（早）

仙台国際コンクールまで、2ヶ月半ということ、75日、1800時間、10万8000分、64万8000秒!!楽しみ(o'▽'o)
(Y#)

いよいよコンクールですね。演奏後のインタビューと結果の予想という非日常を今から楽しみにしています(Y)

初めて関わったコンチェルトがついに発行！こんな風にみんなで創り出しているんだと実感。初めての仙台国際音楽コンクールにワクワクが止まりませーん！沢山の方に楽しんでいただければうれしいです！(M・I)

あと2ヶ月でコンクール。読者の皆様、ぜひ予選から、ご鑑賞ください。ファイナルでの感激が倍増します！(岡)

期末試験、レポートと忙しい時期を乗り越え、やっと一段落です。今年も学業とボランティア活動の両立を楽しみつつ頑張ります。(M)

「(は)ばたけコンチェルト」Vol.1、1&2 で若手演奏家の堂々たる演奏を聴いて将来が楽しみな人材が仙台・宮城に多くいることを実感しました。将来の「仙台国際音楽コンクール」が益々レベル向上に向けて発展していく展望が予測できます。(勝)

第3回ヴァイオリン1位のアリョーナ・パーエワが2月のN響定期公演に登場。コンクール出場者のその後の活躍に接するたびに、コンクールが出場者にとって何らかの礎になっていると思われる昨今。皆さんもぜひ会場に足を運んで未来のスターを見つけてください(吾)

出場者発表！今回もたくさんの出会いがありますね。楽しみます！(Y.I.)

チケット情報を編集しながら、先行予約を逃したことに気づき、慌てて一般発売で確保しました。灯台下暗し。(III)

近く野山にもマンサクが咲き始めました。杜の都にも若きコンチェルトの響きが聴けるのも、もう間近！(清)

初めてコンチェルトの制作に携わることができました。無事発行になってとても嬉しいです^ ^コンクールではどんな演奏が聴けるのか今から楽しみです♪(A・I)

新メンバーも加わり楽しく活動しています。第7回コンクールに向けて、ボランティアの皆さんと気合い入れて頑張りたいと思います。(事務局S)

事務局員としてこの号からコンチェルト制作に携わらせていただいています。コンクール開催に向けて、皆さんとともに盛り上げていきたいと思っています。(事務局T)

発行：第7回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア

問合せ：仙台市市民文化事業団音楽振興課(仙台国際音楽コンクール事務局) Tel: 022-727-1872 / e-mail: info@simc.jp / URL: <https://simc.jp>